

神奈川県初の配電線による電灯供給 常盤町火力発電所

- 住所
横浜市中区常盤町1-6
- 交通アクセス
JR 根岸線
関内駅 南口 200 m

■神奈川県初の配電線による電灯供給

明治23年(1890)10月1日、横浜共同電燈会社は、関内の常盤町1丁目に設置した常盤町火力発電所(本社兼)から関内と外国人居留地へ、神奈川県初の配電線による電灯供給を始めました。

これは、東京・日本橋における日本初の電灯供給開始から3年後、東京、神戸、大阪、京都、名古屋に次いで全国で6番目の開業でした。

なお、この供給開始にあたっては、半月前から試験送電を行い、発電所に併設した本店事務所に電灯を点灯し、顧客勧誘のデモンストレーションを行いました。開業時には700灯の申し込みがあり、同年末には1131灯(供給戸数133戸)に増加しました。

■当時の地図での場所

図1は、横浜共同電燈会社が電灯供給を始めた年の1年後、明治24年更改の陸地測量部発行の2万分の1地形図です。常盤町火力発電所のあった常盤町1丁目9番地*は、「常盤町火力発電所」と追記した赤丸印のところで、公園の直ぐ西側にあります。*常盤町1丁目の詳細位置は図3参照



図1 明治24年の地形図(陸地測量部)
国土地理院旧版地図(横浜区)使用



写真1 開業時の常盤町火力発電所
(出典 横浜電気株式会社沿革史)

国立国会図書館蔵

■現在の状況

明治時代の地図(図1)を参考に、現在の地図(図2)において常盤町火力発電所の位置を追うと、港湾部での埋立てなどの変化はありますが、公園



図2 現在の地図
国土地理院2万5千分の1地形図使用



図3 常盤町一丁目

(出典 横浜実測図、明治14年) 国立国会図書館所蔵町名区画が道路を挟んでなされています。現在も当時と同じです。

の位置と道路区画に注目することで「常盤町火力発電所跡」と記した赤丸印のところになります。

現地を訪ねたところ、常盤町火力発電所があったと思われる場所には、東京電力株式会社の関内変電所があり、住所は中区常盤町1-6でした。

辺りを調べたところ、この変電所建物敷地の西側角に、茶色の「神奈川県電燈供給発祥の地碑」がありました。



写真2 常盤町火力発電所跡(現東京電力関内変電所) 奥は横浜公園(横浜スタジアム)



写真3 変電所敷地角に設置されている記念碑

正面部分には、次のような碑文が刻まれ、左横にはエジソン式直流発電機のレリーフが埋め込まれていました。

碑文「明治23年10月(1890年)横浜共同電燈会社が、この地に火力発電所を建設し、神奈川県で初めての電力供給を開始しました。当時の発

電所は出力100キロワットの石炭火力で、お客様は約700軒でした」

■発電所の設備概要

工事は、日本で最初に電燈供給を始めた東京電燈会社が請け負いました。そのためか、設備内容は、同社が同年に東京・神田錦町に建設した第四電燈局と同じでした。

<発電所の設備概要>

- ・汽缶 84馬力×2基、ルーツ水管式
- ・汽機 75馬力×2基、ニューヨーク・セイフティ スティムパワー形
- ・発電機 25kW×4台、エジソン10号型低圧直流125V、3線式

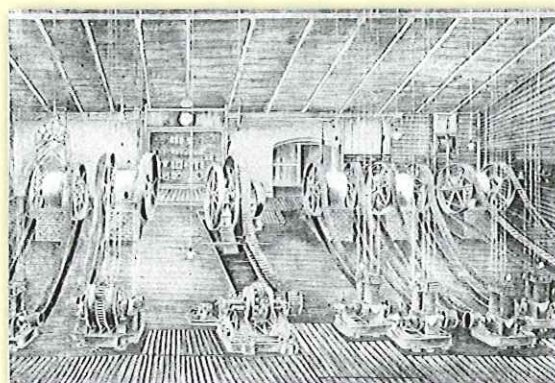


写真4 明治29年頃の常盤町火力発電所内部 (出典 横浜電気株式会社沿革史) 国立国会図書館所蔵
 ・中央から右側に、汽機1基にエジソン型発電機2台を平ベルトでつないだユニットシステムが見られます。
 ・中央から左側は、その形状から交流式60kW発電機と推察されます。

■発電所のその後

開業後、居留地での申し込みが順調で、同年の12月に、当初の設備とは異なるブラッシュ式単相交流発電機(60kW、2,000V、133サイクル)1台を増設しました。居留地への供給は配電線の距離が長く、これまでの直流低圧配電では供給が難しいため交流高圧配電にしたものですが、これは日本で2番目、関東初の交流発電設備導入でした。

その後も、需要の増加に応じ増設を行いました。

- ・明治26年(1893)、エジソン型 25kW×2台
- ・明治28年(1895)、インダクター型単相交流式 60kW×1台(2,000V、100サイクル)
- ・明治30年(1897)、ブラッシュ式単相交流式 30kW×2台

明治31年(1898)、常盤町火力発電所には増設するスペースが無くなり、新たに裏高島町火力発電所(216kW)が建設されました。これに伴い、常盤町火力発電所は予備化されました。

明治35年(1902)、裏高島町火力発電所の増設に伴い、常盤町火力発電所は廃止されました。発電所としての稼働は12年間でした。